

[成果情報名] 山形県の湖沼や河川におけるオオクチバスの食性

[要 約] 県内の湖沼や河川に生息するオオクチバスの胃内容物を調査した結果、魚類を主に捕食し、また、体サイズが大きくなるにつれて、魚類とともに様々な生物を捕食するようになると考えられた。

[部 署] 山形県内水面水産試験場資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] オオクチバス、食性

[背景・ねらい]

オオクチバスは、全国の湖沼及び河川等に広く拡大し、生息する湖沼や河川の在来魚種を多量に捕食し、湖沼や河川の生態系を破壊していると言われている。そこで、本県におけるオオクチバスの捕食状況を把握するためにその胃内容物を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. オオクチバスの検体として、平成16年7月27日～28日に徳良湖において、平成16年8月30日～9月1日に畑谷大沼において外来魚生息状況調査で採捕した個体、平成16年9月15日に樋口沼で、平成16年11月10日に最上公園で実施された外来魚の水抜き駆除で採捕された個体、及び鮭川の築場で混獲された個体を用いた（図1）。
2. 各湖沼及び河川におけるオオクチバスの胃内容物組成（重量比）（図2）によると、魚類の捕食が多く、その割合は、徳良湖では約59%、畑谷大沼では全長14-18cmで約97%、全長25-28cmで100%、樋口沼では全長8-11cmでほぼ100%、全長14-20cmで約76%、全長23-27cmで約90%、全長30-36cmで約83%、鮭川では体長にかかわらず100%であった。
3. 全長10cm未満の小さい個体から30cmを越える大きな個体まで、オオクチバスは、魚類を主な餌料としていた。畑谷大沼では、漁協がコイ・フナ・ワカサギの放流を実施しているが、これらの魚類も捕食されていると考えられる。
4. オオクチバスは成長に伴って食性を変化させるとの報告がある。本県の湖沼や河川において、全長が14cmを越える個体の胃からは甲殻類や昆虫も出現し、体サイズが大きくなるにつれて、魚類とともに様々な生物を捕食するようになると考えられた。

[成果の活用面・留意点]

1. オオクチバスの主な餌生物は魚類であるため、漁協等が在来魚種を放流する際は、身を潜めることができるような水草帯などに放流するなど、十分な配慮が必要である。

[具体的なデータ]

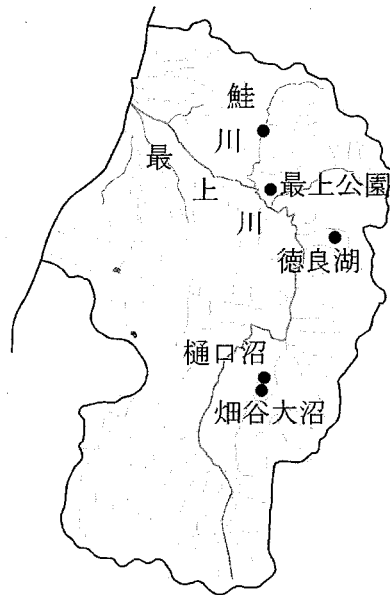


図1 調査場所

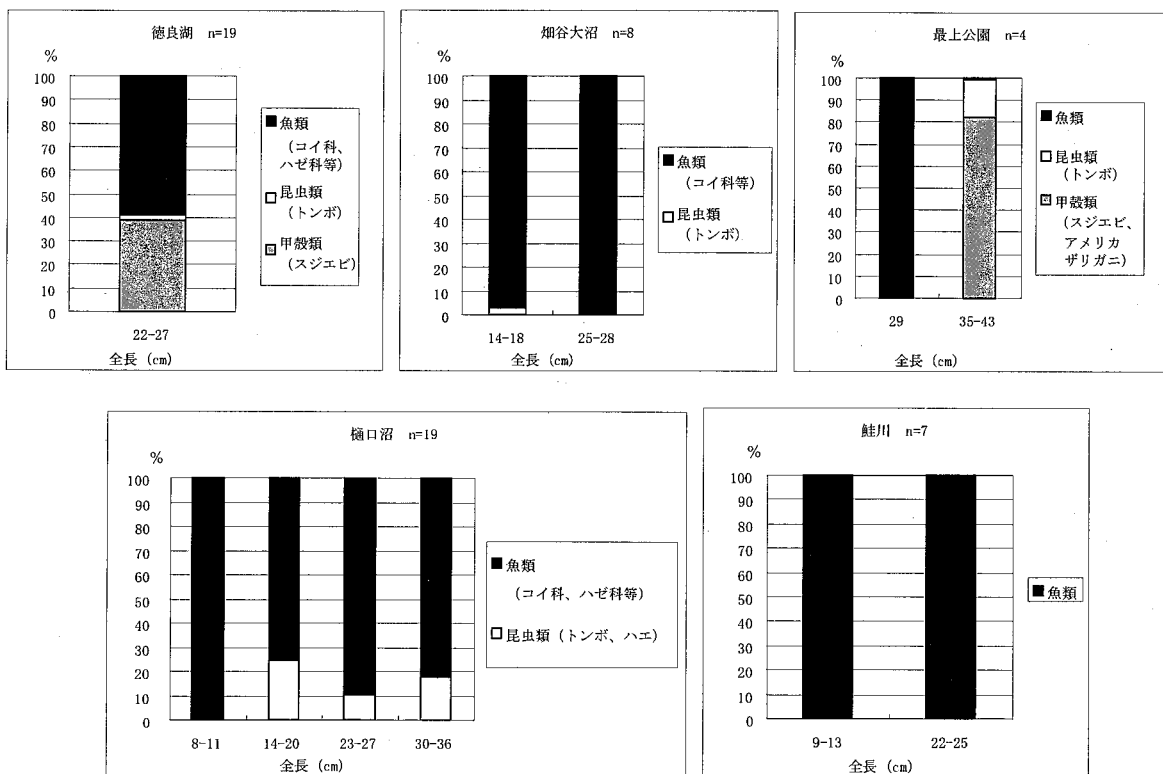


図2 オオクチバスの胃内容物組成 (重量比)

[その他]

研究課題名：外来魚緊急総合対策事業
 予算区分：国庫
 研究期間：平成16年度 (平成14～16年度)
 研究担当者：河内正行
 発表論文等：なし